

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
地域福祉の理論と方法 I		必修 (社.精) 選択 (心)	2	2.3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
田中 結香	講師控室	kyoumu		授業終了後に質問等受付	
授業の目的・概要	<p><目的>地域福祉の知識を獲得し、地域福祉の推進方法を学ぶことで、地域を基盤としたソーシャルワークの理論を総合的に理解することを目的とする。</p> <p><概要>教科書を中心に進めるが、順番が前後することもある。教科書に書かれている内容について、実際の現場での実践を例に説明したり、現場での写真や映像等も活用したりしながら内容をわかりやすくしていく。また、実践に即した課題も取り入れながら進めていく。印刷教材と同時双方向型の遠隔授業を活用していく。</p>				
学習上の助言	教員が説明するだけの一方通行の講義ではなく、学生の主体的な参加が必要となる。また、毎回課題を出すため、課題達成に向けた予習・復習することが望ましい。				
教科書	新・社会福祉士養成講座9 第3版 地域福祉の理論と方法/編:社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規出版				
参考書	指定参考書なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	地域福祉の視点の持ち方・考え方について理解し、説明できる。			社(2)、社(1)	
②	他の講義と関連させ、地域福祉の概念に留まらずに知識を獲得していく。			HSU(2)、(3)、社(1)	
③	地域を基盤としたソーシャルワーク実践ができる力を身につける。			HSU(2)、(5)、社(1)、(2)	
④	実際の現場でのソーシャルワーカーの実践について理解する。			社(2)	
⑤	国家試験の問題を確実に解答することができる。			HSU(2)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション (講義概要・講義の進め方・評価方法等の説明をし、学生と重要事項の同意及び契約を行う)	印刷教材等での授業	「地域」に対するイメージや地域福祉の観点で自身の地域について説明できるよう準備する。		3
2	「第1章 新しい社会福祉システム」 地域福祉の発展過程についておさえる。新しい生活課題に対しても目を向け、法律による位置付けも理解する。	印刷教材等での授業	テキストを読んで地域福祉の歴史を理解しておく。また、生活困窮者や自立支援法について調べ、理解を深めておく。		6
3					
4	「第2章 地域福祉の基本的な考え方」 地域福祉の考え方を学び、重層的に地域を捉える力を身につける。	印刷教材等での授業	地域福祉における圏域の概念及び、多様な地域の捉え方や地域組織も理解しておく。		6
5					
6	「第4章 行政組織と民間組織の役割と実際」 地域福祉計画・社会福祉協議会・社会福祉法人について理解し、説明できる。	印刷教材等での授業	行政の地域福祉計画について調べておく。社会福祉協議会や社会福祉法人の組織形態を理解しておく。		6
7					
8	中間まとめ (地域福祉の機能と構造) 併せて、第1回～第7回のフィードバックを行う。	同時双方向型授業	第1～7講のレジュメを振り返りまとめておく。		3
9	「第4章 行政組織と民間組織の役割と実際」 NPO・民生委員について理解し、説明できる。	同時双方向型授業	NPO や民生委員、保護司について説明できるよう準備しておく。		3
10	「第5章 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割」 コミュニティソーシャルワークの基本的考え方について理解する。他機関・多分野との連携やチームアプローチの必要性と実際について学ぶ。個別支援から地域支援への展開方法について理解し、その概念や必要性を説明できる。	同時双方向型授業	コミュニティソーシャルワークとは何か、個別支援から地域支援の展開方法を理解し、説明できるよう準備しておく。		9
11					
12					
13	「第6章 住民の参加と方法」 地域住民としての地域福祉推進の参加方法について学習する。	同時双方向型授業	地域福祉推進の参加方法について、自身の地域でのあり方を調べておく。		6
14					
15	講義全体のまとめと試験対策及び意見交換	同時双方向型授業	わからない部分を明確にしておく。資料をすべてまとめておく。		5
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照				

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	0	0	0	50	100
総合力指標	知識・技術力	40	0	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	25	25
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	25	25
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	講義で学んだ知識を確認します。 試験では、講義中に説明した内容やテキスト及び配布資料から必ず出題します。				試験の答案用紙は返却しません。 希望者には点数をお伝えします。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎回講義のテーマに応じた課題を講義中に 出題します。その課題の取り組み状況や内容等を点数化して 加点します。しっかりと課題に取り組んでいるかの姿勢や意欲を見て いきます。さらに、随時講義の感想を記載してもらいます。その内容から しっかりと講義内容が理解できているかや講義への積極性も確認 します。				質問事項や課題に対する回答について、必要な場合は 次回の講義時に説明をしたり、メディアを使用し個別に回答 します。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
備 考							
<p>○Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨します。</p> <p>○今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得ます。</p> <p>○同時双方向型授業では講義中にフィードバックを行います。できない部分は個別に質問に返答する場合があります。</p> <p>○社会福祉士・精神保健福祉士取得希望者は必ず履修してください。</p> <p>○1年生で通常受講すべき講義、特に「相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」知識や技術を修得しているものとみなして講義を進め、演習を行い、課題を提出してもらいます。</p> <p>○「地域福祉の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」は連続した講義内容の構成となっていますので、両方の講義を受講していただくと、より理解しやすいと思います。</p> <p>教員の実務経験：在宅介護支援センター相談員・地域包括支援センター社会福祉士・MSW として合計 17 年の経験。</p> <p>実践的授業の内容：教員が実際に現場で担当している事例等を用いながら（個人を特定できないよう加工修正）、教科書の理論について現場の実践内容を踏まえて説明し、実践と理論の循環を意識して進めていきます。実際の現場の動きを映像として見たり、現場で活用している様式を使用して、実践と同じ感覚で事例検討会や記録の方法を体験していただく予定です。</p>							